

15

有限会社 日沢建設

〒039-0317 三戸郡田子町大字山口字山口14 TEL 0179-33-1839 FAX 0179-33-1139
 [HP] <http://www.hizawa.co.jp/> [mail] hizawa@hi-net.ne.jp

VOICE

代表
日沢 勇



心落ち着くシックな
古民家風住宅

樹齢 100 年以上の青森県産のスギや南部アカマツの無垢材を用い、落ち着いた空間に仕上げた。

社寺建築の手法を活かした家づくり

伝統構法を用いた
高性能な住宅づくり

私たちは創業以来、社寺建築を多数手掛けてきました。その経験で積み重ねた伝統構法の知識と、確かな技術を活かした青森県産材の住宅を、県内外で建てています。

社寺建築では、柱に穴を開け、水平方向に木を貫通させる「貫工法」を用います。古くから伝わるこの技術を、時を越えて現代においても駆使し、丈夫で長持ちする住宅を建てるのが、私たちの家づくりの特徴です。このような手法を導入しながら、国が定める高い気密性・断熱性の基準値を満たす高性能な住宅づくりにも取り組んでいます。

使用する木材は主に、この地域で豊富に採れる良質なスギの無垢材¹。構造材

にはもちろん、壁板などの化粧材にも積極的に使用しています。土台には腐りにくいクワ。梁には南部アカマツを使う場合も。床は柔らかいスギが人気ですが、傷が気になる方には堅いナラを使うこともあります。

ユニークな要望にも
柔軟に対応

「木が湿気を吸ったり吐いたりし、室内の空気を自然な状態にしてくれて快適」。お客様からこのような言葉をいた



1.無垢材/原木から角材や板を直接必要な寸法に切り出した建材

16

有限会社檜屋木材店

1952 HINOKIYA 一級建築士事務所

〒031-0081 八戸市柏崎3丁目8-13 TEL 0178-43-3848 FAX 0178-41-1002
 [HP] <https://1952hinokiya.net> [mail] 1952hinokiya@gmail.com

VOICE

代表取締役
柁澤 卓馬



柔らかな光が
家中を包み込む

床は青森ヒバの無垢材。優しい香りが広がる。

柔らかな光が差し込むモダンな家

材木店だからこそ知る
青森県産材の活かし方

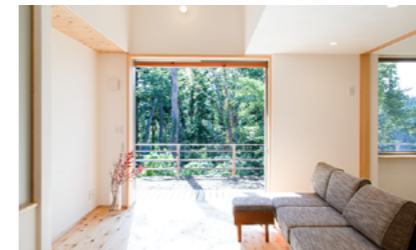
当事務所の母体は、主に青森ヒバを取り扱っている材木店。社名にも冠した1952年、私の曾祖父が下北地方でヒバを使った下駄屋を始めたのが原点です。その後、ヒバが自生していない八戸で、曾祖父と祖父がヒバ材の販売を始めました。そのような背景を持つがゆえ、私たちは地元で育つ木材の長所を良く知っています。

特に青森ヒバはリラックス効果をはじめ、抗菌、防虫効果も期待できる素材。このような優れた特徴を持つ青森ヒバを家の土台にし、柱に地元のスギ、梁に南部アカマツを使って家を建てています。

釘などの金属類を使わずに、木と木を組み合わせる家は、地震で生じる

1.無垢材/原木から角材や板を直接必要な寸法に切り出した建材

力を柔軟に受け流すため、丈夫で長持ちします。それに加えて無垢材¹は冬でも暖かく感じられるため、厳しい冬も快適に過ごせます。



家に入るたびに香る
癒やし効果の青森ヒバ

私たちの家づくりのモットーは、このような昔ながらの知恵と、便利になった現代の生活スタイルを組み合わせ、心豊かに暮らせる家を作ること。モダンなデザインで、柔らかな光が室内に広がるよ

うに設計しています。「家に入るたびに、ヒバの香りに癒やされる」と話してくださるお客様は多いです。また、無垢材の床は肌触りが良くベタつかないので、素足で歩いても気持ちがいいそうです。

時を重ねるほど味わいが出る無垢材は、流行に流されることがありません。私たちは、建てた後のフォローも大切に、お客様の暮らしに長く寄り添う「共に生きる家」をご提案いたします。





庭園の緑を楽しむ
和のたたずまい

室内と庭をつなぐ濡れ縁に、温かみのある無垢材を使用。ゆったりとした気持ちで自然を楽しめるように仕上げた。

木をふんだんに使った昔ながらの家

用途に合わせて 製材して、建てる

1947年に私の父が製材所を立ち上げ、2代目の私が引き継いだ後の1998年、住宅をはじめとする建設事業を開始しました。

私たちが建てるのは、木材をふんだんに使った昔ながらの家。しっかりとした土台を作るのはもちろん、断熱性にもこだわっています。

使用する木材は、青森県産の質の高いスギ。梁に使うのは南部アカマツなどです。長年住む家に使うのは、やはりこの地で生まれ、この地で育った木が一番。気候風土に合っているからです。製材業者として毎日木と向き合っているからこそ、胸を張ってお勧めできます。用途に合わせて製材し、職人がその木の特徴や

質を見極めた上で、見える所には節のない木材を使用することなどを考えながら、丁寧に住まいを建てていきます。



真壁工法で分かる 地元の木の美しさ

木を組み合わせる伝統構法で建てた家は、地震や強風で受ける大きな力を柔軟に受け流すため壊れにくく、安心して住み続けられます。お客様からも、その点

が一番良かったという声が多いです。また、柱や梁が見える真壁工法の家は「木の美しさを堪能できる」と好評です。

無垢材¹からは木の香りや温もりが伝わり、心も体も癒やされます。また、青森ヒバの抗菌効果は有名ですが、スギが持つ精油成分にも抗菌効果が期待できるという研究成果があります。

「1部屋だけ木の部屋にしたい」「県産材を部分的に使いたい」など、ご予算に合わせて対応できます。ぜひご相談ください。



1.無垢材/原木から角材や板を直接必要な寸法に切り出した建材



地域とつながる
ひさしのある家

多くの人たちが集うことを考えて設計した、接骨院と貸しスペースがある兼用住宅。カーブさせたひさしが特徴的だ。

地域とのつながりが生まれる家

住まいに使うのは 地元の自然素材がベスト

夫婦共に、一級建築士の資格を持つ設計事務所です。2人とも東京生まれですが、野辺地町に妻の実家を設計したことがきっかけで、2016年1月、十和田市に移住しました。

移住後、さまざまな仕事を手掛けるうちに、住まいにはその土地の自然素材を使うことがベストだと考えるようになりました。それによって「地元の素材で建

てた家に住む」という、地域とのつながりが生まれるからです。

木材は、時間の経過とともに、新品にはない味わい深さが出てきます。それはとても価値があること。2年前にリフォームした私たちの事務所兼住宅は、一部の床に地元のスギを使用しました。当初は白と赤交じりだった明るい色が、今は経年変化により全体的に薄茶色に落ちています。これからも時間とともにどんな表情に変わるのか、楽しみです。

動線づくりを工夫し コミュニケーション図る

住まいの設計において私たちが最も大切にしていることは、家族のコミュニケーションをしっかり取れる家であること。廊下を作らず、帰宅後、リビングで家族と顔を合わせてから、それぞれの部



1.無垢材/原木から角材や板を直接必要な寸法に切り出した建材



屋に行けるような動線づくりをしています。また、建築家ならではのデザイン性を生かしながら、高気密・高断熱で、冬でも寒くなく快適に過ごせることも重視しています。

木の家に住む方からは「心地よい香りがする」という声が多いほか、訪れた皆さんからの評判も良いとのこと。住む方が「地元にはこんなにいい木がある」と感じる事ができ、家だけではなく地元への愛着にも結びつけられるような家づくりを心掛けています。